

フットパスによる地域活性化の展開

～英国 WaW の理念、効果、可能性～

2018 年

日時

11月7日 水

14:00 ~ 17:00

会場

ニセコ町民センター

虻田郡ニセコ町
字富士見 95 番地

TEL 0136-44-2221



講師



Sam Phillips (サム・フィリップス氏)

英国 WaW ネットワーク会長、コッツウォルズ在住

Randal Metzger (ランダル・メツガー氏)

英国 WaW ネットワーク理事、西ヨークシャー在住

参加費

1 人 1,000 円 (資料代、通訳料)

内容

- ・ WaW がいつ、どこで始まったか
- ・ 地域がどう変わったか
- ・ どのように全国に広がっていったか
- ・ WaW のこれから
- ・ WaW からみたニセコフットパスの可能性は

その他

- ・ 通訳がつけます。
- ・ セミナー終了後、同じ会場で講師を交えたレセプションを開催します。(要申込み、会費 3,000 円)

WaW について

10 年ほど前からイギリスでは地域活性化の一環としてフットパスを活用する動きが全国規模で展開されるようになりました。それが WaW(Walkes are Welcome) です。

今回、その主要メンバー 2 名が訪日するにあわせて、北海道にもお呼びして、WaW の活動ぶりなどを話していただくことになりました。

Public Footpath
Walkers Way

お問い合わせ・お申し込み

- ・ (株)ニセコリゾート観光協会 担当 川内
メール: master@niseko-ta.jp
- ・ ニセコフットパス協会 工藤 090-8903-5705
メーリングリスト: waw-niseko-seminar@googlegroups.com

フットパスとは？

英国発祥の footpath は直訳すると「歩行専用路」となり、その名の通り「歩く人のための道」です。英国では農民や労働者たちの権利運動の一環として、1800年代後半から運動が盛んになりました。その後「歩く権利法（1932年）」が制定され、英国中に24万kmにも及ぶフットパス網が張り巡らされました。

その地域の人々が昔から生活のためなどに使っていた道と認められれば、私有地、国有地を問わず歩くことができます。ただし、道から外れない、ゲートの開け閉めなどのルール（カントリコード）は守らなくてはなりません。現在は歩く団体の「ランブラーズ協会（Ramblers Association）」が道の整備や私有地の所有者との折衝、イベントの開催、維持管理などを行っており、全英で10万人を超える会員がいます。

日本に上陸したのは1990年代に入ってからで、東京都町田市、北海道新得町で同時多発的にフットパスができました。北海道では2002年に（公財）北海道新聞野生生物基金主催のフォーラムが札幌市で開催され、参加者は300名超となり、北海道のフットパス元年となりました。毎年2回「全道フットパスの集い」が開催され、さらに2006年には日本フットパス協会（事務局町田市）も立ち上がり、全国的にも広がりを見せています。

フットパスはその基本的な性格を3つのSで表すことができます。「Slow」「Simple」「Sustainable」です。それは歴史、文化、自然、景観、さらには食や農といった地域資源の再発見、新発見につながります。歩く速度はこれらの要素を細部まで体感するのにぴったりのアクティビティであるだけでなく、ウォーカーと地域の人々との交流へと発展していく契機になります。フットパス歩きは誰でも、何時でも実現可能な体験ではありますが、自分の健康のみならず地域の健康（活性化）にも貢献できる点が最大の特徴と言えるでしょう。このように歩く側も受け入れる側も、ウィンウィンの関係になる可能性を秘めているのがフットパスなのです。全国で盛り上がっているフットパスは、歩く活動の域を超えて地域振興、農林業、観光、環境教育、エコツアーなど各方面からの関心が高まっています。

エコ・ネットワーク代表
小川 巖



WaW 発祥のヘブデンブリッジのフットパス



コッツウォルズ・ウィンチカムのフットパス

WaW (Walkers are Welcome) とは？

イギリス発祥のフットパス（Footpath）は総延長が24万kmを超える歩行路が、国内に網の目のように張り巡らされています。150年以上の歴史があり、フットパス歩きはもっともポピュラーなアクティビティとしてしっかり定着しています。

それに対して日本ではフットパスという言葉が使われるようになってから20年位のもので、発展途上にあると言えるでしょう。ウォーキングなどのように健康目的というよりは、地域の活性化や人々との交流を主な目的にして進めてきました。

しかしフットパスの先進地イギリスで、地域の活性化を目指す活動が始まったのは、意外なことに10年程前のことでした。それがWaWです。ブリテン島中部のマンチェスターに近いヘブデンブリッジ（Hebden Bridge）という小さな町から始まりました。それが現在100を超す国内の地域がネットワークを形成するまでになっています。

WaW ネットワークの会長を始めとした幹部が来日する機会を捉え、北海道にもお招きして活動の全体像について語ってもらうことにしました。フットパスをツールに地域おこしを進める上で、たくさんのヒントが得られるものと期待しています。

